

大野和士（指揮） *Kazushi Ono, conductor*

東京都交響楽団およびブリュッセル・フィルハーモニック音楽監督、新国立劇場オペラ芸術監督。

1987年トスカニーニ国際指揮者コンクール優勝。これまでに、ザグレブ・フィルハーモニー管弦楽団音楽監督、東京都交響楽団指揮者、東京フィルハーモニー交響楽団常任指揮者（現・桂冠指揮者）、カールスルーエ・バーデン州立劇場音楽総監督、モネ劇場（ベルギー王立歌劇場）音楽監督、アルトゥーロ・トスカニーニ・フィル首席客演指揮者、フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者、バルセロナ交響楽団音楽監督を歴任。

2017年5月、大野和士が9年間率いたリヨン歌劇場は、インターナショナル・オペラ・アワードで「最優秀オペラハウス2017」を獲得。自身は2017年6月、フランス政府より芸術文化勲章「オフィシエ」を受章、またリヨン市からリヨン市特別メダルを授与された。

また、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、バイエルン国立歌劇場、ハンブルクオペラ、ベルリン・ドイツ・オペラ、イスラエル・フィル、ボストン響、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、ローマ・サンタチェチーリア管、ロンドン響、ロンドン・フィル、ハレ管弦楽団、BBC交響楽団、パリ管、フランス国立放送フィル、ウィーン響、スイス・ロマンダ管、ヒューストン響といった世界各地のオペラハウスおよびオーケストラでの客演も枚挙にいとまがない。その類まれな指揮は、「繊細な美しさ、満ちあふれる威厳、心を揺さぶる感動の渦に包まれた最高のコンサートをもたらした」と高い評価を受けている。

2019年、大野和士が発案した国際的なオペラ・プロジェクト「オペラ夏の祭典2019-20 Japan↔Tokyo↔World」が大きな話題を集め、2019年『トゥーランドット』、2021年『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ともにクオリティの高い記念碑的な公演として絶賛された。

また、新国立劇場では、2019年に西村朗『紫苑物語』（世界初演）、2020年に藤倉大『アルマゲドンの夢』（世界初演）、2021年にワーグナー『ワルキューレ』、ビゼー『カルメン』（新制作）、渋谷慶一郎『スーパーエンジェル』（世界初演）、2022年にドビュッシー『ペレアスとメリザンド』、ムソルグスキー『ボリス・ゴドゥノフ』を指揮、大きな話題を呼んだ。

フランス批評家大賞、日本芸術院賞ならびに恩賜賞、サントリー音楽賞、朝日賞など受賞多数。紫綬褒章受章。文化功労者。

Official Website <https://www.kazushiono.com>